

学級としての「自律」

支持的風土の理念「受容・傾聴」「支援」「自律」は、目指す目標であると共に支持的風土に向かうための筋道でもあります。（筋道の具体は、「テロワール」第2号を参照してください。）支持的風土の醸成で最終的に目指しているのは「自律」です。「自律」の定義を学校支援課では、次のように示しています。

自律とは

- 事実を基に的確に状況を捉え、自分の目標、集団に共有されている価値に照らして適切に判断し、行動できること。自分の行動に責任をもつこと。
- 自分の行為を振り返り、今後どうすべきか考えること。（「テロワール」第3号より）

「仮に自分が失敗した時には、それを決して他人のせいにはしてはならない」「責任転嫁ではなく、自分でその責任をとり、それを自分のための成長の糧にしたい」この心掛けは、「自律」の心を磨くには極めて有効です。

やがては子どもが、自分自身でPDCAを回していける力をつけることを目指します。

「自律」は、社会人として大事な“状況を見極めて適切に判断し、自ら実践する”ことを目指しています。教師による他律的な指導が幅をきかせている学級では、子どもは指示を待つことが多くなります。状況を見極めて適切に判断し、自ら実践する力の育成を見据えて、学級としての「自律」、個人としての「自律」を目指した支持的風土を醸成していくことが重要です。

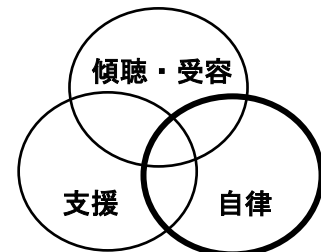
学級としての「自律」に必要なこと

★ “自治的な学級集団”をつくること

【自治的な学級集団とは】

集団生活に必要な規律やルールを自分たちで決め、それを進んで守り、自分たちの問題や課題は、自分たちの力で知恵を出し合いながら仲間と共に解決しようとしていく集団。

支持的風土の理念



<自治的な学級集団の目指す姿>

★ 規律やルールを他律的なペナルティを伴って守らせるのではなく、時間がかかってもその規律やルールの意味を理解し、自分たちで働きかけ合いながら進んで守っていくとする学級。

注 子どもへの実際の指導場面では、他律的な指導が必要なこともあります。他律がすべて悪いわけではありません。しかし、あくまで子どもの自律心を育てるための他律（叱責等）であることを私たち教師が肝に銘じておく必要があります。

★ 自分たちの活動目標を決め、その成果を自分たちで評価しながら前へ進んでいくPDCAサイクルを学級として機能させている学級。

自治的な学級集団を具現するための

教師の構え

- 規則やルールは、罰則を伴って守らせるものではなく、「互いに気持ちよく学習や活動をするためにみんなで守ろう」という姿勢を育てる。
- 不正には厳しい態度で臨み、学級では「正しいことを正しいこととして、遠慮なく言って実践しよう」という気持ちを育てる。
- 「自分の学級が大好きだ」「自分の学級が誇らしい」という思いを、誰もがもてることを目指す。

個人としての「自律」

「自律」は，“状況を見極めて適切に判断し，自ら実践する”ことができるようになることを目指しています。そのためには，自分の今の状況を正確に自己観察する力や目指す目標や手立てに修正をかけていく力が必要です。子どもが，実際に自分の今の状況を自己観察したり，修正をかけたりする経験を積むこと，そして，それをする事のよさを子ども自身が実感することが大切です。以下に示すのは，“自律”のゴールの姿です。目の前の子どもの実態，発達段階と照らし合わせて，個人としての「自律」を育む手掛かりとしてください。

個人としての「自律」に必要なこと

★ 自分の今の状況を正確に自己観察し，修正する力をつけること

この力をつけるためのポイント

以下のような過程を子どもに意図的に経験させます。そして，やがてはこの過程を子ども自身が意識的に行うことができるようにしていきます。

- ① 集団の目標を踏まえたうえで，自分の目標を立てる。同時に評価項目も一緒に設定する。
- ② 目標を達成するための有効な手立てを考え，決める。
- ③ 達成のための実践，努力を主体的に行う。他との連携が必要な時には自分から求める。
- ④ 活動の終了時（長いスパンの時には中間）や一定の期間が過ぎたら自己評価を行う。

よりよい方向へ修正していくためには，評価が正確であることが欠かせません。そのためには，自分の今の状況を，客観的に観ること，多面的・多角的に捉えることができるよう子どもに指導していく必要があります。

- ⑤ 評価結果に基づき，振り返りを行う。（振り返りの観点として，例えば次のようなものが考えられます。）

- | | |
|---|---|
| <input type="radio"/> 何が効果的だったか。それはなぜか。 | <input type="radio"/> 何がうまくいかなかったか。それはなぜか。 |
| <input type="radio"/> もし，また同じことをやるとしたら何を変えるか。 | <input type="radio"/> この考え方は，どんな時に使えそうか。 など |

「自律」の心を育てるためには，“自己を見つめ，振り返る”時間や機会が必要です。そのためには“書く”という行為がとても重要です。なぜなら，“書く”ということは“考える”ということであり，“書く”という行為を通して，自己との対話を深め，より深く自己を見つめることができるからです。“書く”ことは，“自律”の心を育てるために欠かせないものです。

子どもが書いたものに対し，教師が感想やアドバイスを送ることも，子どもの「自律」の心を磨いていくために極めて有効です。

- ⑥ 振り返りを次の活動に生かし，振り返りを基に新たな活動目標を立てていく。

新潟市の子ども一人一人のよりよい成長のために



「テロワール」というタイトルには，温かく高みを目指す風土の中で，どの子どもにもよりよく生きるための資質・能力を育成していこうという思いが込められています。

今年度の訪問で，安心して，楽しく，伸び伸びと学校生活を送る子どもの姿に多く出会いました。温かく高みを目指す風土の中で，力強く成長している子どもたちの姿に胸が熱くなりました。まもなく新しい年度がスタートします。新潟市の子ども一人一人のよりよい成長のために，来年度もたより・計画訪問・各種研修など様々な機会を，支持的風土づくりを取り上げていきたいと思っております。

次号は，“年度初めに大切にしたいこと（仮）”です